

中学校 第1学年 音楽科 学習指導案

青森県八戸市立白山台中学校
講師 長者久保 希史子








題材名 拍子やフレーズなどの曲の特徴を生かして歌おう（2時間）







題材のねらい 『サウンド・オブ・ミュージック』のナンバー『DO-RE-MI（ドレミの歌）』『エーデルワイス』を教材とする。2曲の速度、拍子、フレーズや音の重なり方、動き方などの曲の特徴、英語と日本語の歌詞の表現の違いや曲想の違いを理解し、表現を創意工夫して歌う。

本時のねらい 『DO-RE-MI（ドレミの歌）』『エーデルワイス』の歌詞の内容や英語と日本語の歌詞の表現の違い、速度、拍子、音の重なり方、旋律などの特徴を理解し、曲想を感じ取る。

指導時期 4月下旬～5月上旬

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

コンテンツ名	機能	活用意図や目的
 範唱	<ul style="list-style-type: none"> ● 範唱CDの英語と日本語の音源を楽譜連動再生できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 選択ボタンで英語か日本語を選び、繰り返して聴いたり、音源に合わせて歌ったりする。 ● 言語をすぐに切り替えることができるので、両言語により表出される音楽の雰囲気や特徴を比較するために便利である。
 音取り	<ul style="list-style-type: none"> ● 上下パート別に楽譜連動再生できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● パートごとに集まって場所を変えて練習せずとも、画面に表示される楽譜と音源で十分に曲を理解し歌唱することが可能である。
 歌詞	<ul style="list-style-type: none"> ● 範唱CDの音源に加え、英語の朗読音声を再生できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校1年生には聞きやすい速度で録音されているので、英語の歌詞の習得に活用できる。
 メトロノーム	<ul style="list-style-type: none"> ● ツールバーの「教科コンテンツ」に収録。 ● 速度、拍子、音色を選択できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2曲の速度の違いを確認するのに有効である。
Active! p.16	<ul style="list-style-type: none"> ● ペンで表に記入することができる。 ● 二次元コードからワークシートをダウンロードできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2曲の特徴から、それぞれ曲想や構造、共通点や相違点を整理して表示することができる。 ● 1～4をどのように表現するかまとめることができる。
楽譜ページ p.14、15	<ul style="list-style-type: none"> ●  楽譜に書き込みできる ●  コメントして、楽譜ページに貼ることができる。 ● ※ツールバーの  に格納されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 曲想に係る記号をマークできる。 ● 「Active!」にまとめたことと関連させながら、より豊かな表現の工夫に導くことができる。 ● 工夫したことを記録・保存して繰り返し活用したりすることもできる。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<p>① 2曲の概要を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2曲の演奏場面を視聴し、『サウンド・オブ・ミュージック』で演奏されていることを知る。 ● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 	
展開	<p>② 2曲の全体像を捉える。</p> <p> 範唱</p> <p>日本語で再生。生徒は音源に合わせて歌い、曲想や歌詞の内容を理解する。</p> <p> 歌詞</p> <p>英語の朗読を再生し、発音を確認した後に英語で歌う。日本語と英語の表現の違いや、音と言葉の関わりから生まれるよさについて考え、交流する。</p> <p>【言葉や内容表現の違いについて、生徒から引き出したい内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語詞 <ul style="list-style-type: none"> ● 音符一音に一文字なので歌いやすい。 ● 言葉数が少なく、表現が簡潔。 ○英語詞 <ul style="list-style-type: none"> ● 音符一音に一文字ではないので、発音が難しい。でも、英語が言語なので、歌い慣れると曲の雰囲気を出しやすいかもしれない。 ● 英語の歌詞は「Doeは鹿、雌の鹿」のように説明が詳しくなっている。 <p>【音と言葉の関わりから生まれるよさについて、引き出したい内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本語詞 <ul style="list-style-type: none"> ● □の形を縦横に使い、舌も上下に動くように意識して使うので、表現を柔らかくできる。 ● フレーズの最後の音に単語の最後の文字が入るように歌うことが多い。最後の音に力を入れたり、音が平たくなったりすることが少なく、立体的で豊かに歌うことができると考える。 ● 歌詞に思いや情景などがはっきり書かれている。なので、情景を明確にして歌うことができる。 	  <ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じて、p.15下の 歌詞の翻訳 を拡大表示することも考えられる。 

○英語詞

●『DO-RE-MI』は、英語の発音が歯切れよく、快活な感じが出しやすい。DO→RE→MI…と音が高くなるにつれて、テンションも上げて歌っている。

③曲の特徴を捉える。

Active!

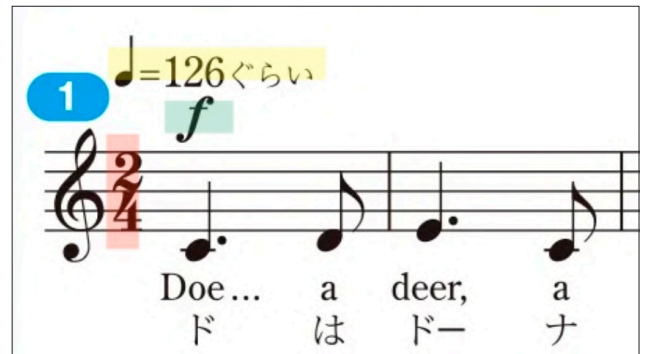
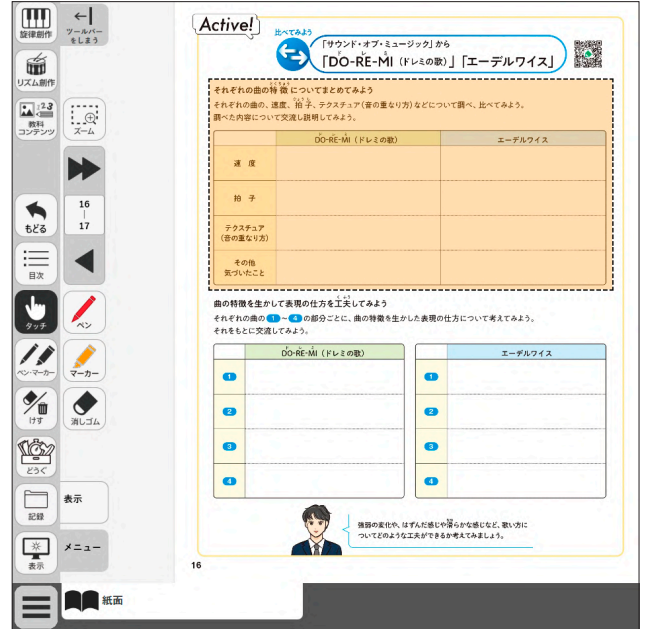
ワークシートを用意し、楽譜を見ながら2曲の速度、拍子、フレーズや音の重なり方、動き方など曲の特徴を捉え、記入する。

- グループで各自の考えを発表し合う。
- クラスで各グループの考えを発表し、電子黒板などに映している**Active!**にまとめる。楽譜にもマーカーで印をつけて確認する。

④2曲それぞれのよさや特徴について考える。

- 2曲のよさや特徴についてワークシートにまとめる。その際に、歌詞の内容と、今までまとめた曲の特徴を関連させて、よさに導くようにする。

- 生徒が記入している間、電子黒板などでも**Active!**を映す。



- ツールバーの や、 の を活用する。

- 特徴の根拠となるもので、まだ生徒から発表されていない内容が出たら楽譜に追記する。生徒にも各自の楽譜に書き込むように指示する。

展開

T : 2曲それぞれの特徴には、どんなことがありますか。また、どんなところによさがありますか。

S : 『DO-RE-MI』は、『エーデルワイス』に比べて速い速度の2拍子で、歌詞もフレーズもまとまりが大きいので、体が元よく前進していくような感じがしました。

S : 『DO-RE-MI』の④からの二重唱は、各パートで違う動きをしているけれど、どちらもドレミを強調している感じがします。

S : 『DO-RE-MI』は、音が順番に上がっていくので（順次進行）、気持ちもアップさせる効果があります。『エーデルワイス』は、次の音まで離れているので（跳躍進行）、しっかり息を吸って歌うことで柔らかさを出すことができますと思います。

S : 『エーデルワイス』は、『DO-RE-MI』に比べて少しゆっくりな速度の3拍子です。控えめだけど、何かの思いをしっかりと伝えたいという気持ちが伝わってきます。

S : 今まで聴いた3拍子の曲は、元気に踊る感じでしたが、『エーデルワイス』の3拍子は、たっぴりと豊かな感じで、大人っぽくてステキだと思いました。

S : この曲のmpとmfで、込められた願いの強さがより表現され、引き立っていると思います。

●必要に応じて順次進行や跳躍進行という用語とその効果を説明することも考えられる。

まとめ

⑤曲に合った表現を意識して歌う。


●発表し合ったことともに、2曲それぞれの特徴やよさを意識して歌う。英語・日本語のどちらで歌うかは生徒に選択させる。




●生徒の意見をまとめた **Active!** を映す。

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

- ①この曲を日本語で歌う場合は、音符一音に一つの文字であるが、英語で歌う場合は音符一音に複数の文字が入る。英語詞を朗読して練習しただけでは、音符一音に言葉をうまくはめることが難しい。

そこで、 を表示し、音に言葉をうまくはめることが難しいと考えられるところや、生徒から出た難しさを感じるところに黄色いマーカーで線を引く。その状態で再生すると、現在歌っている箇所(紫色のハイライト)と黄色でマークしている箇所が重なる。こうすることで、音符一音に入る文字の塊や単語を理解しながら歌えるようになる。

- ②複数のパートに分かれて合唱するとき、生徒が自分の担当パートの音を見失い、歌いにくくなることもある。

そこで、 を表示し、状況によって上パートと下パートを切り替えて必要な声部の音をすぐに出しながら指導できる。よって、生徒は各パートの歌唱をしっかり習得することが可能である。